

口蹄疫 Q&A

平成22年5月26日
岩手県中央家畜保健衛生所

(Q1) 口蹄疫とはどのような病気ですか？

また、早期発見のためには、どのような点に注意したらよいですか？

(A) 1 口蹄疫とは

本病は、原因となる口蹄疫ウイルスが偶蹄類の動物（牛、豚、山羊、めん羊、水牛など）に感染して起こる病気です。人に感染することはありません。感染力が非常に強く、畜産業に大きな経済的損失をもたらすため、感染の拡大を防止する措置（侵入防止・記録・早期発見）が必要です。

2 早期発見のポイント

(1) 感染すると発熱、多量のよだれ、舌などの口内・蹄・乳頭に水ぶくれができ、食欲不振や足をひきずるなどの症状を示します。感染力が強いため、通常は単発ではなく、複数の家畜が発病します。

(下写真参考)

(2) 飼養家畜の健康状態を、毎日丁寧に確認し、(1)の症状を認めた場合は、直ちに中央家畜保健衛生所（TEL：019-688-4111）に連絡するか、獣医師の診察を受けるようお願いします。

【宮崎県の事例における感染牛の写真（宮崎県提供）】



多量のよだれ

口内の水ぶくれ（初期）

水ぶくれが破れたあと

(Q2) 口蹄疫から家畜を守るためにはどうすればよいですか？

(A) 岩手県内に口蹄疫ウイルスが持ち込まれるとすれば、発生地域に居たことがある人が、靴の底や車のタイヤに付けて持ち込む可能性が高いです。そういった可能性のある人を、絶対に畜舎に近づけないようにすることが重要です。以下、口蹄疫の侵入防止対策のポイントを3つお示しします。

1 人の出入りの制限

- (1) 普段から部外者の農場への出入りを制限し、特に家畜への接触はさせないようにしましょう。
- (2) 外来者専用の衣服（紙つなぎ等）や長靴を用意し、獣医師や家畜人工授精師など農場に出入りする関係者全員に着用してもらいましょう。
- (3) 畜舎に出入りするときは、手指や長靴の消毒、作業服の交換・洗濯を徹底しましょう。

2 出入りする車や持ち込む器具等の消毒

- (1) 農場に出入りする車両〔家畜運搬車（自己所有車、農協、家畜商等）、家畜診療者（獣医師、家畜人工授精師、削蹄師、営農指導員等）、関係業者（飼料運搬車、バルク車、動物医薬品・生産資材・器材の販売業者等）、その他（ガス配送者、郵便配達、宅急便等）〕は、農場の出入口の外で足回りを徹底的に消毒しましょう。
- (2) 農場に持ち込む器具等は消毒しましょう。
- (3) 公道から自宅、畜舎への通路と畜舎の周囲 2m には、消石灰を散布しましょう。

3 家畜の観察

Q1の(A)2が早期発見のポイントです。

異常を発見したら、獣医師が診察して口蹄疫ではないと診断するまで、農場内で待機してください。診察により口蹄疫が否定できないときは、家畜保健衛生所職員が立入検査を実施しますので、到着するまで同様に待機（農場関係者及び獣医師等）してください。本病の拡大を防止するために重要です。

※以上、1～3のポイントを確認するため、毎日「**飼養管理日誌**」（Q3を参考）をつけましょう。

(Q3) Q2の※にある「飼養管理日誌」を記載することは何に役立つのでしょうか？
また、どのようなことを記載すればよいのでしょうか？

- (A) Q2の(A)でお示ししたとおり、靴底や車両等にウイルスが付着して感染が拡がることが考えられるため、農場に出入りするすべての訪問者を記録するほか、飼養者の外出先についても記録し、保管しておくことが重要です。また、本病に感染した家畜は、症状が出る前から、ウイルスが排出（息、糞、尿、乳汁）され、その間、農場に出入りした関係者によって、他の農場に持ち運ばれます。異常を発見した時点で、既に別の農場に感染が拡がっていると考えられます。そのため、人の流れが早く分かれば、その人が出入りした範囲を特定し、それ以上、病気が拡がることを抑えることができます。

以上のことから、飼養管理日誌の記録は重要ですので、必ずすべての農場で、下記を参考に記載してください。

飼養管理日誌（記載例）

平成 年 月 日～ 月 日

月日	訪問者・車両・外出	氏名／会社名／場所
／	飼料会社／農協／薬品会社／工事業者 家畜運搬業者／死亡畜運搬業者／獣医師／削蹄師 人工授精師／家畜保健衛生所／役場職員／郵便配達／宅配便／新聞配達／電気・ガス・水道／知人 学校／買い物／その他	〇〇飼料 〇〇人工授精師 クロネコヤマト 〇〇スーパー
／	同上	

(Q4) 口蹄疫ウイルスには消毒薬が有効ですが？

- (A) 1 消毒薬は塩素系（ビルコンS・クレンテ：500～1,000倍希釈）やアルカリ性剤（石灰）、ヨウ素系（クリンナップ：400倍希釈・バイオシッド30：500～1,000倍希釈）、アルデヒド系（グルタクリン：800倍希釈）等が有効です。種類の違う消毒薬を混ぜて使用すると効果が低下したり、有毒ガスが発生する場合がありますので、説明書をよく読んでお使いください。
- 2 口蹄疫ウイルスは一般的に pH7～9 の中性領域で安定していますが、pH6 では2分間、pH4（酸性）では15秒間で死滅します。また、pH11以上の強アルカリでも死滅します。身近なものでは、炭酸ナトリウムの4%水溶液が安価で消毒薬として使用できます。また、食酢（ミツカン穀物酢業務用）の1,000倍希釈液も消毒薬として効果があります。

※ 4%炭酸ナトリウム液の作り方

(準備するもの)

- ①炭酸ナトリウム（別名：炭酸ソーダ、ソーダ灰）
- ②水
- ③容器（消毒槽やバケツなど）

(10L作成手順)

- ①容器に炭酸ナトリウムの粉末400gを入れる。
 - ②容器に10Lの水を入れて溶かす。
- 必要に応じて右の表を参考に作成してください。

(取扱上の注意)

- ①ホルマリンとは混ぜないでください。
- ②火傷をする恐れがあるため、人の手・顔など直接皮膚に触れないようにしてください。

【作り方】

炭酸ナトリウムの量	水の量 (リットル)	容器の参考例
80g	2	ペットボトル
400g	10	バケツ
720g	18	一斗缶
1kg	25	

(Q5) 具体的にはどういう方法で消毒したらいいのでしょうか？

- (A) 消毒はQ2の(A)でお示した飼養衛生管理において非常に重要な役割を担っています。以下、消毒のポイントを3つ紹介します。

1 農場に出入りする車両の消毒方法（写真1）

- (1) 車両消毒は、動力噴霧器や加圧式散布器を用いて実施します。消毒薬による火傷の恐れがあるので、直接皮膚に触れないように注意してください。消毒液の入ったバケツを用いてブラシで消毒しても構いません。いずれの方法でも、泥や糞便等の汚れは確実に落としてから足回りを重点的に消毒しましょう。消毒後は、さび防止のため、水洗を行ないましょう。
- (2) 畜舎周辺を行き来する車両のタイヤは、敷地内の通り道に消毒薬をしみ込ませた布（古い毛布や古畳など）を敷いておくといでしょう。

2 畜舎出入口の踏み込み消毒槽設置方法（写真2）

- (1) 長靴の底が十分浸ることができる大きさの容器を畜舎入口に設置し、畜舎に出入りする際は必ず靴底を消毒するようにしましょう。
- (2) 消毒槽の手前に洗浄用容器を設置して、靴底の汚れを水で落としてから消毒しましょう。
- (3) 消毒薬が汚れた場合には消毒効果が落ちるので、こまめに交換してください。また、期間の経過でも消毒効果が落ちるので、定期的に交換してください。



写真1：加圧噴霧器による車両消毒



写真2：踏み込み消毒槽（手前）
水の入った洗浄用容器（奥）

3 畜舎周囲・農場外縁部の消毒方法

車のタイヤや野生動物に付着したウイルスが畜舎に持ち込まれることを防ぐために、農場敷地内に消石灰を散布します。

- (1) 農場入口付近や農場内の通路、外部車両が停車する場所等に消石灰を散布しましょう。
- (2) 畜舎の周囲や農場の外縁部には、下の散布イメージを参考に消石灰を散布しましょう。この方法により、野生動物が畜舎に侵入した場合でも、二重に消毒されることになります。



- (3) 消石灰は0.5～1kg/m²を目安にホウキ等で均一に広げましょう。